



安否確認ボランティアの募集



これまで青葉区の青葉災害ネット（支えあいカード）・鴨志田緑小学校地域防災拠点などを紹介したけれど、最後は人なんだ。
特に安否確認には、まとまった人数が必要なんだ。



災害後、青葉区が把握している要援護者約300名の安否確認をするだけでも多くの人が必要だね。僕たちの地域ではどれくらいの安否確認ボランティアが必要なの？



災害発生後約1時間後から、防災拠点の救出救護班の委員と民生委員が中心となり、安否確認チームを編成して、支えあいカード登録者の安否確認に向かうんだ。
緑小学校地域防災拠点全域にわたる、約300名の要援護者の安否確認に対応するには1チーム3名、15チーム程度の編成で最低45名のボランティアが必要なんだ。



最低45名かあ。災害は在宅時に起こるとは限らないので、本人がボランティアをしたくてもその時に現場にいない可能性が高いよね！



そうなんだ！だから、できるだけ多くの人、幅広い年代層に、この安否確認ボランティアに手を挙げてほしんだ！



ボランティアに登録するには、どうすればいいの？



ホームページのボランティア募集申し込み画面から申し込んでね。
防災訓練当日に、ボランティア受付でも登録できるよ。



ボランティア募集



安否確認ボランティアは何をするの？ 何か持っていくの？



今年は11月9日に開催するので、他の地域の方々と一緒に安否確認の方法の説明をうけて、模擬の安否確認を徒歩で行うよ。
ヘルメットや軍手など用意されているので、特別用意するものはないよ！



11月9日（土）に行われる

鴨志田緑小学校地域防災拠点の防災訓練について



11月9日の地域防災訓練は、町内会・自治会の訓練と緑小の訓練を同時に行うよ。
住んでいる町内会・自治会では、住民の安否確認や救護訓練を行い、同時に連動して、緑小学校の防災拠点の避難所訓練も行うんだ。



見学できるの？



もちろん！大歓迎！
鴨志田消防署の「スモークテント」で火災時の煙の威力を体感することも出来るよ。
他にも、大きな炊飯器での「炊き出し」や「仮設トイレの組立」なども参加可能！
ペット飼っている方は「ペット避難所」も見学するといいね。
災害が起こってからじゃ遅いから今のうちに知っておく事が大事なんだ。



国や横浜市では、若い人たちの防災訓練の参加を奨励しています。
防災マインドを持つ子供たち・学生さんを大歓迎、今も将来も！！



鴨志田緑小学校地域防災拠点からのお知らせ



2024年6月1日発行

発行：鴨志田緑小学校地域防災拠点運営委員会

ホームページの紹介
平時の防災力アップや震災時の情報収集に鴨志田緑小学校地域防災拠点のHPを活用下さい。
<https://kamoshida-bousai.jp/>

鴨志田緑小学校 地域防災拠点



知っていますか？



鴨志田緑小学校 地域防災拠点



大地震 発生

地域防災拠点について
僕たちが説明するよ！
宜しくね！

自宅が安全なら
そのまま自宅で
避難だよ！



自宅で生活できる



在宅避難



自宅建物に火災や倒壊の危険がないときには、地域防災拠点に行く必要はないんだ。
普段と変わらない生活を送れるように、日頃から備えることが大切なんだ。
食料や生活用品の備蓄の目安は、**最低3日分、目標1週間分**は欲しいな！



地域防災拠点は、自宅が倒壊して生活が出来ない人が避難するところなんだ。
僕たちの地域では**鴨志田緑小学校**が指定されているよ。
避難所ではプライベートな空間を確保することが難しく、環境の違いで非常にストレスがたまる生活になるので、自宅の耐震化や備蓄すること、家具固定など家の安全性を高めることで在宅避難ができるようになることが大切なんだ。



地域防災拠点とは？

地域防災拠点は、市内のどこか1か所で震度5強以上の地震が発生した場合に開設します。青葉区では40か所が地域防災拠点に指定されています。

役割
その1

避難所

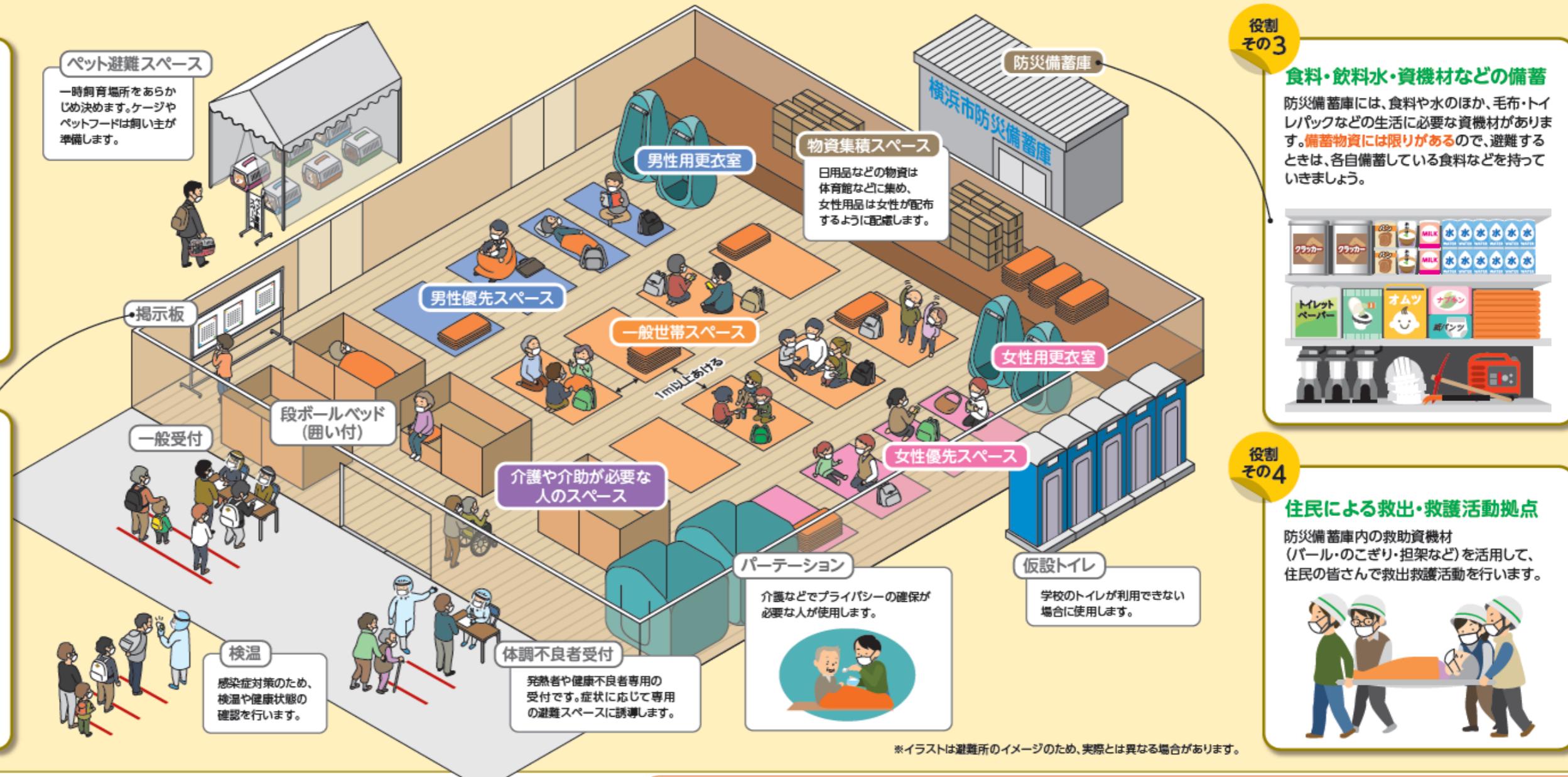
建物倒壊など、自宅に住むことができなくなった住民が避難生活をします。



役割
その2

物資配布・情報受伝達拠点

地域防災拠点には物資や情報が集まります。集まった物資や避難生活に必要な情報（安否情報、ライフライン情報など）は、避難者はもちろん在宅避難者も受け取ることができます。



役割
その3

食料・飲料水・資機材などの備蓄

防災備蓄庫には、食料や水のほか、毛布・トイレパックなどの生活に必要な資機材があります。備蓄物資には限りがあるので、避難するときは、各自備蓄している食料などを持っていきましょう。



役割
その4

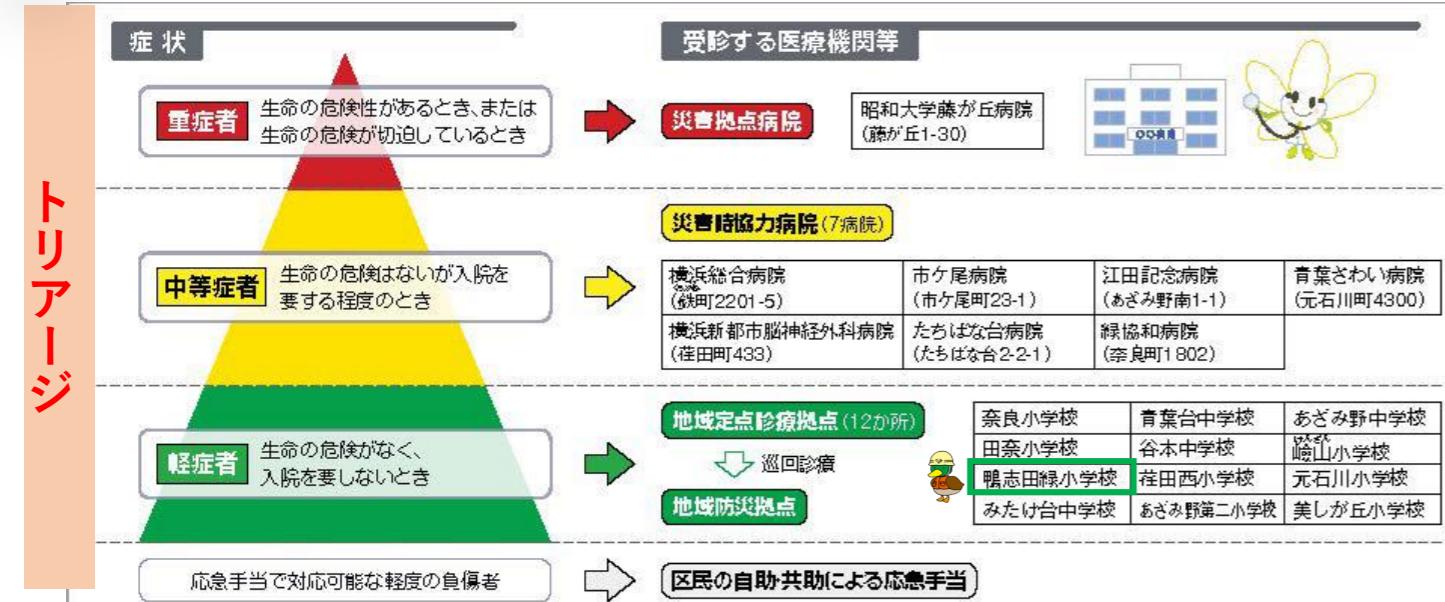
住民による救出・救護活動拠点

防災備蓄庫内の救助資機材（パール・のござり・担架など）を活用して、住民の皆さんで救出・救護活動を行います。



上の図は横浜市で震度5強の地震が発生した時に開設される地域防災拠点の図だよ。そして震度6弱以上の地震が発生した時には鴨志田緑小に『災害時地域定点診療拠点』が開設されるんだ！下の図のように『災害時地域定点診療拠点』では近隣医師等が参集したのちトリアージ※や軽症者への診療を行うんだ。

※トリアージとは緊急救度や重症度に応じて、傷病者に治療優先順位を決めるこ



『支えあいカード』登録のススメ



知ってる？ 僕たちが住んでいる鴨志田緑小学校地域は他の地域に比べて85歳以上の高齢者の割合が3.4%と他の地域より1%高いんだって！？



高齢者が多いということは災害時に援護が必要な方も多いということだね。



そうなんだ。青葉区では災害時に援護・支援が必要な方を、あらかじめ把握するために『青葉災害ネット』を作っているんだ。そのツールとして『支えあいカード』があるんだ。



青葉区から災害時に援護が必要であろう方に対し青葉災害ネット（支えあいカード）の登録案内状を約300名に郵送しているんだけれど、現在の登録者数は55名程度なんだ。



えっ！そんなに登録が少ないんだ！これじゃあ災害が起った時、登録していない要援護者はすぐ助けが必要かどうか把握できないね！



そうなんだ！支えあいカードの登録は災害時の安否確認にとても重要なことなんだ。

青葉区から『支えあいカード』の作成の案内を受け取った方・ご家族は、災害発生時の混乱を防ぐためにも、登録を強くお勧めします。

「支えあいカード」は、自治会・町内会、民生委員、地域防災拠点及び区役所で厳重に管理し、地域で発災時に備えて活用されます。